

農推第1149-8号  
令和元年11月12日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病害虫発生・防除情報メールサービス（11月）

大阪府内の11月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。  
昼夜の気温差が大きいので、施設栽培では結露による病害の発生に注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ  
ホームページ

▲防除指針

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

## 目次

1 果樹(温州みかん、バラ科果樹)	P.1~2
2 野菜類・花き類全般	P.3
3 野菜(トマト・ミニトマト、あぶらな科野菜、たまねぎ、ねぎ)	P.4~8

次回の情報は12月中旬頃にお知らせします。

## 2020年農林業センサスが実施されます

農林水産省・大阪府・市区町村では、令和2年2月1日現在で、「2020年農林業センサス」を実施します。

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。  
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



令和元年度に発生の多かった、被害が目立った病害虫（令和元年4～9月）

病害虫名	主な作物名	発生量
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	水稲	発生拡大
べと病	ぶどう	やや多い
せん孔細菌病	もも	やや多い
クビアカツヤカミキリ	バラ科果樹 (もも、すもも、うめ等のサクラ属)	発生拡大
シロイチモジヨトウ	キャベツ他あぶらな科野菜、 花き類、施設果菜類	多い
アブラムシ類	キャベツ	やや多い
アザミウマ類	なす、ねぎ	やや多い

発生の多かった病害虫については、次年度も発生に注意して防除しましょう

## 果樹

### 11月の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
温州みかん	貯蔵病害に注意					
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意					

## 温州みかん

### 貯蔵病害



緑かび病

#### 特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

#### 防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**（軸腐病、青かび病、緑かび病）や**ベフラン液剤25**（青かび病、緑かび病）などを散布する。
- ◆果実の濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

## クビアカツヤカミキリ

確実に防除するためには被害の早期発見が重要です！被害状況を確認しましょう！！



成虫

幼虫

うどん状フラス

中華麺状フラス

## 特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から10月頃に中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫は中華麺状フラスを出す。



被害枝



ネット被覆（もも）

## 防除のポイント

- ◆被害の大きい枝や樹は、早期に伐採し、チップ化する。可能な場合は市町村の規定に従い焼却する。切り株も、ネットやビニルシート等で覆う。

詳細は5月7日発表の防除情報  
「クビアカツヤカミキリに注意！」参照

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/H3105kubiaka.pdf>

## 野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## 11月の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類 (露地)					シロイチモジヨトウ	
				オオタバコガ		

## シロイチモジヨトウ



ねぎを加害する幼虫

## 特徴

- ◆ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。
- ◆府内各地のフェロモントラップにおける誘殺虫数が、引き続き平年値を上回っている。

## 防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
- ◆施設栽培の場合は開口部に目合い4mmのネットを展張する。

詳細は9月25日発表の防除情報

「ヨトウムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujvoivouhou/R0109yotoumushi.pdf>

## オオタバコガ



なすの花を加害する幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食入孔のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、**プレオフロアブル**（トマト、ミニトマト、花き類など）、**アニキ乳剤**（トマト、ミニトマト、きくなど）などを散布する。

# 野菜

## 11月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)			コナジラミ類		すすかび病
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)			根こぶ病		
			菌核病		
			アブラムシ類	アザミウマ類 シロイチモジヨトウ	
きゅうり (施設抑制栽培)				うどんこ病 炭そ病・褐斑病 べと病	
たまねぎ			べと病		
ねぎ	ネギハモグリバエ 発生に注意				

### トマト・ミニトマト(施設栽培)

#### コナジラミ類



トマト黄化葉巻病発症株

#### 特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

#### 防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は定植後の早い時期に感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤などを散布する。

#### すすかび病



被害葉 表(左) 裏(右)※

#### 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、シグナムWDG、ファンベル顆粒水和剤（トマトのみ）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)  
 ●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## 根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良\*

## 特徴

- ◆定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

## 防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類では播種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。

## 菌核病



キャベツでの発病

## 特徴

- ◆長雨や、強風雨によって発生が助長される。

## 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との連作を避ける。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期から**ベンレート水和剤**、**ロブラール水和剤**などを予防的に散布する。

## アザミウマ類



キャベツを加害するアザミウマ類※

## 特徴

- ◆成虫、幼虫ともに葉を吸汁加害し、カスリやテカリなどの被害が発生する。
- ◆ネギアザミウマはネギ類の害虫であるが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。

## 防除のポイント

- ◆周辺にねぎのほ場がある場合は、ネギアザミウマの飛来により被害が大きくなるため、注意する。
- ◆発生を認めたら、キャベツでは**スピノエース顆粒水和剤**、**モスピラン顆粒水溶剤**を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

## シロイチモジヨトウ



キャベツを加害する幼虫

## 特徴

- ◆ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。

## 防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。

詳細は9月25日発表の防除情報

「ヨトウムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R0109yotoumushi.pdf>

## アブラムシ類



キャベツを加害するアブラムシ類

## 特徴

- ◆葉裏に発生し、結球すると防除が難しくなり、品質が低下する。

## 防除のポイント

- ◆葉裏に発生するので、ほ場をよく見回り、発生を認めたら、早期防除を行う。
- ◆結球前の防除を徹底する。
- ◆薬剤が葉裏にも十分にかかるように丁寧に散布する。
- ◆発生を認めたら、キャベツではモスピラン顆粒水溶剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブルを散布する。

詳細は10月9日発表の防除情報

「キャベツのアブラムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R011009aburamusshi.pdf>

## きゅうり（施設抑制栽培）

## うどんこ病



## 特徴

- ◆日照不足、乾燥条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

## 防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回程度の使用に留める。

QoI剤の例：アミスター20フロアブル  
ストロビーフロアブル  
フリントフロアブル25

SDHI剤の例：アフェットフロアブル

- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

## 炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

## 特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆褐斑病は台風のあと、まん延することが多い。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

## べと病



## 特徴

- ◆肥切れは発生を助長する。
- ◆多湿環境下の15～28度で感染し、最適温は20～25度である。

## 防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブルなどを散布する。
- ◆発生を認めたらベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

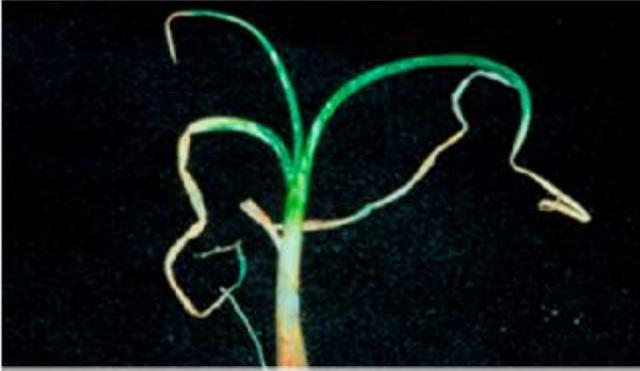
- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## たまねぎ

## べと病



べと病（苗における発病状況）\*

## 特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、次作の発生源になる。

## 防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。

※ジマンダイセン水和剤とペンコゼブ水和剤は同一成分（マンゼブ）。マンゼブの総使用回数は5回以内。

## ねぎ

## ネギハモグリバエ



ネギハモグリバエの被害

## 特徴

- ◆ 葉の内部を幼虫がトンネルを掘って食い進み、その痕が細長く白い筋になる。
- ◆ 今年3月に、京都府では従来の系統より集中的に加害する新系統が発見されている。

## 防除のポイント

- ◆ 発生初期の防除を徹底する。
- ◆ 残さは、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、全体をビニールで被覆する。